

皮膚科研修

皮膚科ローテーション研修目標

皮膚科特有の疾患及び全身疾患の皮膚症状の鑑別診断をおこない的確な薬物、非薬物治療ができる能力を身につける

経験すべき病態・疾患・検査・治療

1. 的確な鑑別診断をおこなうために皮膚の構造と機能について説明できる
2. 鑑別診断をおこなうために検査を指示し実施できる
 - ① 一般検査法をおこなえる
 - ② 皮膚科検査法（皮膚生研検術を含む）をおこなえる
3. 病態・疾患を経験し鑑別診断ができるようにするために
 - 1) 湿疹・皮膚炎群を診察できる (B)
 - 2) 蕁麻疹・痒疹・皮膚そう痒症を診察できる (B)
 - 3) 紅斑症を診察できる
 - 4) 紫斑病を診察できる
 - 5) 血管炎を診察できる
 - 6) 血行障害を診察できる
 - 7) 壊疽を診察できる
 - 8) 物理的および科学的障害を診察できる
 - 9) 中毒疹・薬疹を診察できる
 - 10) 水症および膿疱症を診察できる
 - 11) 紅皮症を診察できる
 - 12) 角化症を診察できる
 - 13) 炎症性角化症を診察できる
 - 14) 膠原病および類縁疾患を診察できる
 - 15) 代謝異常による皮膚症状を診察できる
 - 16) 皮膚形成異常と萎縮症を診察できる
 - 17) 肉芽腫症を診察できる
 - 18) 色素異常症を診察できる
 - 19) 母斑を診察できる
 - 20) 母斑症を診察できる
 - 21) 皮膚腫瘍を診察できる
 - 22) 発汗異常を診察できる
 - 23) 毛包脂腺系疾患を診察できる
 - 24) 毛髪疾患を診察できる

- 25) 爪甲疾患を診察できる
- 26) 細菌性疾患を診察できる (B)
- 27) ウイルス感染症を診察できる (B)
- 28) 真菌症を診察できる (B)
- 29) 原虫・動物性皮膚疾患を診察できる
- 30) 性病を診察できる

4. 診断確定後に皮膚科的な治療をおこなうことができるために

- ① 全身療法を説明し実施できる
- ② 局所療法：外用療法、光線療法について説明し実施できる
- ③ 皮膚外科の適応につき説明し実施できる